

令和 5 年度 東京都地域活動に関する検討会（第 2 回）

事前アンケート 集計結果

《コロナ 5 類移行後の町会・自治会活動の変化について》

東京都生活文化スポーツ局

令和 5 年 12 月

1 町会・自治会のお祭り・盆踊り等のイベントの状況

38 区市町村全てで「活動が再開した町会・自治会が多い」との回答があった。一方で、具体的な内容では一部の町会・自治会では活動の縮小や変更が見られるとの回答もあった。

<具体的な内容>

○ 活動再開の内容

- ・ コロナが感染症法上 5 類に移行したこと及び区の補助金を用意したことで活動が再開した。
- ・ 連合会の事業や日常的な活動については、コロナ禍以前と同様に実施している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行以来、4 年ぶりに市内全体の夏祭りが開催できた。

○ 一部活動縮小があった例

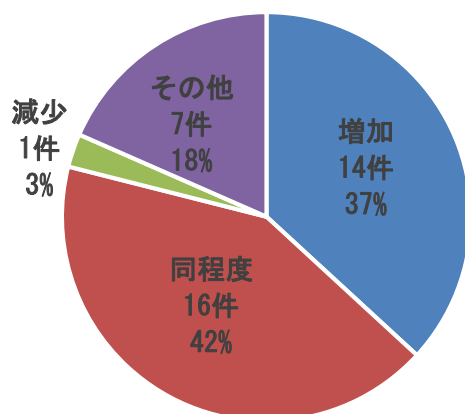
- ・ 宿泊を伴う研修・視察を日帰り開催とし、規模を縮小した団体があった。
- ・ 単一町会・自治会の 7 月～8 月に盆踊りを開催した団体数は、コロナ禍以前と比べ半数程度であった。
- ・ 納涼盆踊り大会を実施した町会・自治会の中には、接待を行わないところがあった。その他各種イベントについては、日数や回数、参加人員などを抑え、段階的に戻していくという対応をしている町会・自治会もあった。
- ・ 中止期間が長く、用具類の準備が整わず、実施を見送ったケースもあった。
- ・ お祭りや防災訓練などのイベントは、縮小したり、一部内容を変更したり、工夫して再開している。

○ 一部形を変えて実施した例

- ・ 「子ども祭りと盆踊り大会を統合し、実施する。」「祭りでの飲食を伴う模擬店を開催しない。」といった変更を行った団体があった。
- ・ 単独町会開催から複数町会での合同開催など工夫しての実施もあった。

2 コロナ5類移行後のイベントへの住民の参加状況

コロナ禍以前と比べて、町会・自治会イベントへの参加者が増加したという回答が14件、同程度が16件、減少が1件、その他が7件だった。



<具体的な内容>

○ 住民の参加が増加した例

- ・ 事業再開により、会員以外も対象にしていることや地域住民からの意識の高まり等がある。
- ・ 3・4年ぶりの開催により、地域住民の参加が増加した。
- ・ 地元住民がお祭りや運動会などのイベントを待っていた雰囲気があり、地区自治会連合会主催の運動会ではコロナ禍前より参加者が増えているとの報告があった。
- ・ コロナ禍で様々な制約があったため、イベントの開催を待ち望んでいた方々が多く、想定を上回る参加者数となった町会イベントもある。
- ・ 盆踊りやまつり(神輿)などはコロナ以前より明らかに参加者が増えていたが、久しぶりの地域イベントの復活とコロナ疲れへの反動かと思われる。コロナ禍以前の参加者数を想定し、熱中症対策用の水を用意したが、紙コップが足りなくなるほどだった。これから、生活環境の各場面において平常時(コロナ前)に戻れば、参加者数も例年並みに落ち着いてくるとと思われる。
- ・ 4年ぶりに開催した地区連合会のイベントには、多くの来場者があり、会場内の模擬店で購入したものを会場内で飲食する来場者が多く見られた。
- ・ 若年家族や子供の参加が増えたところがある。

○ 住民の参加が減少した例

- ・ 祭への参加を小学校に依頼したが、新型コロナの影響により、金管楽器の演奏の練習ができなかったために、参加ができないなどの状況が見られた。また、中学校の吹奏楽部の部員数も、従来よりも、減少している。その結果として、児童・生徒の保護者の参加が減っている。
- ・ 新型コロナに伴い活動を自粛した踊りなどの趣味の活動で、会員の減少などが見られ、その結果として、盆踊りなどの指導者を近隣の自治町会に依頼するなどの対応をした。
- ・ 高齢者の参加が減ったところがある。孫を連れた高齢者が少ない。

○ その他

- ・ お祭りについては、以前より参加者が増えているが、その他の催しは減少傾向だった。
- ・ 連合組織・単一町会が関わっている区内の大きなお祭りの来場者数について、コロナ禍以前よりも参加者が大幅に減ったものと同程度のものがあった。
- ・ 連合会総会については、コロナ禍以前よりも出席者が減となった。講演会の参加者については、コロナ禍以前と同程度であった。

3 5 類移行後の全般的な町会・自治会活動の変化

○ 活動を再開した例

- ・ 5 類移行後、コロナ禍以前に行われていた町会のイベント等が催されるようになり、従前の日常に戻った。
- ・ 盆踊りや町会・自治会イベントなどを再開させる町会・自治会が多くなっている。
- ・ 3年ぶり、4年ぶりに復活した行事も多くみられ、おおむねコロナ禍以前と同程度の参加者数になっている。
- ・ 懇親会など飲食を伴う会合や多くの人が集まるお祭りが再開された。
- ・ 町会自治会での活動を再開するきっかけとして、市民まつりや花火大会を再開した。休止した時期を乗り越えて再開したことで、改めて地域が一丸となり取り組む活動の醍醐味を感じられた。
- ・ コロナ禍で書面開催やオンライン開催になっていた総会などの会議が、対面形式や会場形式で再開された。

○ 新たなイベントを実施した例

- ・ コロナ前の事業規模に戻すような動きが多い。その中で一定の町会・自治会は区の補助金を活用し、バス旅行や街歩きイベント等、新規のコミュニティ促進事業にも取り組んでいる。
- ・ 再開されたイベントへの参加者は、大半の自治会で予想を超え、非常に盛況だった。コロナ禍前のイベントを中止して、新たなイベントを開催した自治会もある。
- ・ 制限がなくなり、役員も手探りながらいろいろなイベントを考え、新イベントが多くなった。また、参加する人たちも想定より多くなっている。

○ 活動の縮小等

- ・ 徐々に元の活動に戻そうとしているが、イベントでの出店等を検討するときに、飲食の提供については町会・自治会内で意見が分かれるケースが多い。
- ・ イベント等で飲食に関する出店が縮小気味の印象がある。
- ・ 総会なども、書面で行うようになり、個々の会員にとって、自治会活動に距離感を持つ者が増えた。
- ・ 各種イベントについては、コロナ禍以前のように再開し、活気も戻りつつあるが、一気に戻すということではなく、開催日数や回数、参加人員などを抑えながら段階的に戻していくという考え方で対応をしている町会・自治会もある。そのため、各種活動が本格的に再開するまでには、もう少し時間が必要と思われる状況である。

○ 担い手不足・活動内容の継承への影響

- ・ 参加者の増加により、運営の人手不足を実感している町会が多い。

- ・ 5類移行後、イベントへの参加者が増え「地域住民も待ち望んでいた」ように感じる。同時に運営の人出が確保できず、内容の見直しや開催日を短縮等により対応した。
- ・ 永らく活動を望んでいる方が多く、活動への参加者は多い一方で運営する方への参加者がなかなか増えない。
- ・ 新型コロナ感染症により、数年間イベント開催ができなかったため町会役員の高齢化による人手の確保が以前より難しくなった。
- ・ 町会・自治会の人手の確保が難しくなってきたため、負担軽減を目指した事業を計画する予定である。
- ・ コロナ以前実施していたイベントを再開するなど、コロナ前の活動水準に戻す町会・自治会がある一方、役員の高齢化等担い手不足により、従来行ってきた事業実施に苦慮しているケースがある。
- ・ コロナ禍を経て、役員のさらなる高齢化や事業を一定期間実施しなかったことによる知識の継承不足及び担い手不足が加速した町会・自治会も一定数発生している。
- ・ この3年間で町会活動が停滞したまま町会役員の高齢化が進み、以前のような活動を進められない町会も見受けられる。
- ・ 3年間活動ができなかった分、今年は何が何でもやらなければという意識が強い。しかし、3年間のブランクにより行事の進め方等を忘れてしまい、手探りでやっている状況にある。一方で、この間後継者が育っておらず運営に携わる人はこの間年をとっており高齢化がますます進行し、今後の行事の運営がとてども危惧される。
- ・ コロナ禍の4年間のうちに役員が交代しており、以前の活動がしにくくなっているところが多い。
- ・ 行事を復活するにあたって、運営側は、この間の停滞により、手配業者の廃業や、役員の交代によるノウハウの未継承などによって、コロナ禍以前に比べ、多大な労力が必要となった。
- ・ 一部の町会は盆踊り大会の開催日を2日間から1日に変更して開催した。開催を見送った町会や縮小した町会は、準備に要する人員の確保や設営にかかる業者の確保等、コロナで開催できなかった間の状況変化が大きく影響した。
- ・ 3年間のブランクを経て実施したため、手順などが上手く進まず、また、久しぶりの活動に勢いがついたことから、想定外のトラブルも発生した。

○ デジタル活用

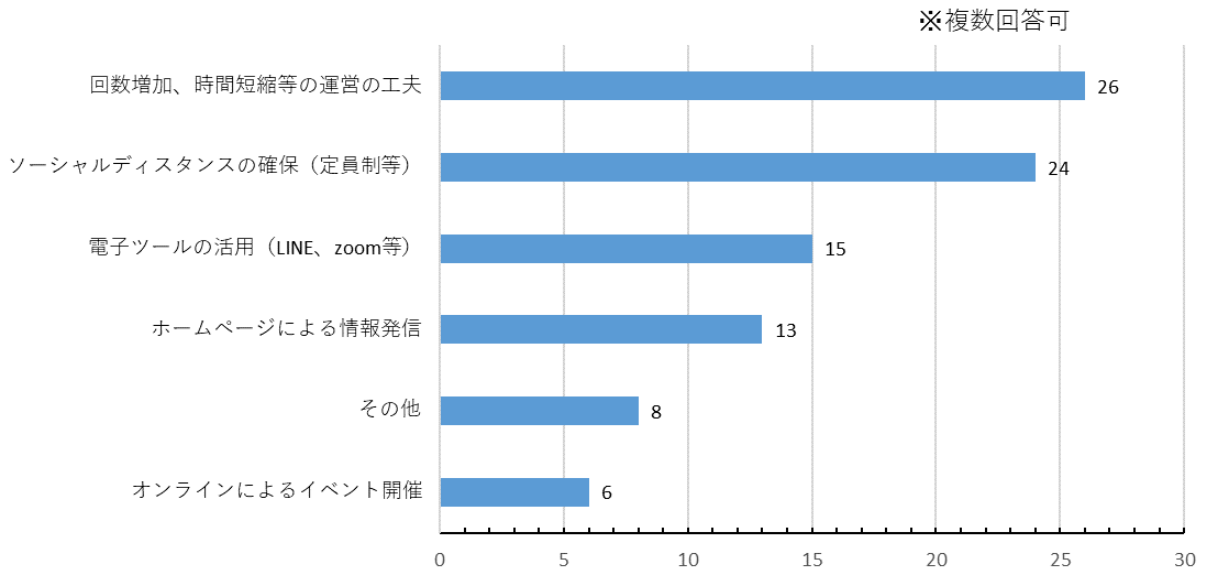
- ・ 掲示板や回覧板などのこれまでの広報に加え、HP、電子回覧板、公式ライン等、デジタルを活用しての地域情報発信を、一部の町会で開始した。SNSを活用した情報発信に取り組む町会も増えた。
- ・ 役員間の連絡などはライングループで行っている自治会・町会も多くなってきた。
- ・ コロナ禍でのオンライン会議（役員間等）を5類移行後も継続している。また、一般会員でも、高齢者などがクラブ活動の連絡に「スマホ（メールやLINE、ショートメールなど）」を使う方が増えている。

- ・総会・役員会等は自治会によって書面開催やオンライン開催等を継続しているほか、ホームページや SNS による情報発信、電子回覧板の活用といった ICT 化の取組を検討・実施している自治会もある。

○ その他

- ・コロナ禍以前と比べ経済状況等の変化を受け、町会活動を支援している方本人の仕事が忙しくなり、町会と関わりかたが多少変化している場合があった。
- ・イベント実施に必要な資材の価格高騰やイベント開催事業者の減少等により事業費の予算確保に苦慮している。
- ・行事の見直し（効率化・短縮化）が図られた。

4 コロナ禍において行った活動の継続の工夫



○ デジタル活用

- ・都の助成制度を活用し、デジタルツールを使い、これまでより効率的に町会運営を行っている町会がある。
- ・情報発信の主軸を回覧から掲示板やホームページ等に置くようにした。
- ・イベントへの申し込み方法に Google フォーム等を活用した。
- ・地区自治会連合会の公式ラインの周知について、イベント（運動会）でライン登録者にラインのクーポン機能を活用してプレゼントを配布、イベント当日は 150 人ほどの登録者を増やした。
- ・オンライン会議や連絡メールなどの活用
- ・Zoom での会議では、なかなかニュアンスや感情が伝わりにくく、対面での会議を望む声が多かった。一方で、時間の制限が少ないことや往復の時間短縮などのメリットを挙げる人もいた。

○ 感染対策の工夫

- ・集客形式で開催していたスタンプラリー、クイズラリーは期間を設けて（一週間など）参加者の自由な時間帯で参加する形式に変更。
- ・お祭り等のイベントでは、手指や道具の消毒、開催時間の短縮、換気の徹底、ソーシャルディスタンス、イベント参加者の人数制限等の感染症に対する予防措置を導入した。

○ その他

- ・町会・自治会の事業に使用できる交付金を、感染症対策事業を行う場合や感染症対策を講じるための必要経費（マスク、アルコール消毒液等）にも使用できるようにした。
- ・屋外やイベントでの活動ができないため、町会・自治会の PR 動画を作成した。

- ・ 連合会の新春講演会・新年会については中止としたが、予定していた区長講演の一部を DVD にし、各地区町会・自治会連合会に配付することで情報の周知を図った。
- ・ 回覧板を止め、行政からのお知らせを盛り込んだ町会通信を配布し始めた町会もある。

5 工夫で町会・自治会活動がよりよくなった点

○ 活動内容の見直し

- ・実施時間の短縮、事業内容の簡略化などにより、少ない人員での事業実施や事業継続が可能となった。
- ・会議がこれまでよりも短くなり、不必要・非効率的な時間の使い方が減った。
- ・お茶出しの廃止のように、そもそもこの制度はいらないということに気づけた部分があり、町会の負担軽減に繋がった。

○ デジタル活用

- ・LINEを活用し、「役員の打合せ」や「事業の実施案内・参加募集を募る」といった取り組みを開始した町会・自治会も少数だが出てきている。
- ・スマートフォンの普及も相まって、比較的高齢の役員間でのLINEなどを使った、連絡や情報交換等も活発になった。
- ・LINE、SNSを活用して役員同士の連絡、イベントへの参加呼びかけを実施している自治町会も出てきている。
- ・町会役員の全員ではないが、コロナ禍に伴い、LINE等を使って情報共有する役員が増えた。
- ・オンライン化を図るにあたって、町会の若手層の力が必須であるため、若手が頼られる機会が増えている。
- ・電子ツールの活用によって人材の発掘に繋がった。
- ・電子ツールを活用したことにより、今まで参加がなかった働く世代の参加者が増えた。
- ・申し込み方法をインターネット使用への変更により、参加者の申し込みが簡素化すると同時に参加者の集計作業が楽になった。
- ・スマートフォンなどを高齢者やシニアが「便利さを体験して」使い始めた。
- ・町内会の公式LINEの開設の効果が大きかった。
- ・令和3、4年度に地域の底力発展事業助成を受け、連合会のHP作成と地区自治会連合会及び自治会・町会向けHP作成支援講習会を実施。HP作成支援ボランティアにはサーバーやコンテンツを検討してもらい、HP作成支援講習会（概要説明会、個別支援説明会）を約30回開催。情報発信力が向上したと感じている。

○ その他

- ・イベント等の目立つ活動が行えなかった一方で、町会による防災・防犯活動等、地道な活動を認知してもらうことができた。
- ・町会・自治会の魅力や加入メリットをまとめた短尺のPR動画を作成し、庁内で放映することで幅広い世代に向けた町会・自治会の魅力発信ができた。PR動画を視聴し、新規加入世帯が生まれた。